

堺アーツカウンシル ニュースレター

vol. 04

発行：堺アーツカウンシル（堺市文化観光局文化部文化課内）

発行日：2022.10.11（不定期に発行） お問い合わせ：bunka@city.sakai.lg.jp



開催レポート | さかいとあーと井戸端かいぎ 第1回

～ゆるく話そう。地域とアート、つながりづくり～

堺市内でさまざまな活動をされている方同士が出会い、つながる場をと今年度からスタートした交流会。初回にも関わらず10名の方にご参加いただきました。なごやかな自己紹介のあと、3つのテーブルに分かれて、メンバーを入れ替えながら語り合いました。テーマは3つ。①他ジャンルとのコラボレーション、②活動するときの苦労話、③活動を続けてきたなかでのハッピー・ラッキー。伝統芸能の教室を運営している方は他ジャンルとのコラボレーションに興味をお持ちだったのですが、いろんな迷い、葛藤なども含めてお話されていました。また、活動を続けていくうえでのポイントについて話されているグループもあり「できるだけほかの人に仕事を委ねて、自分にしかできないことは何か常に考えている」という言葉がとても印象に残りました。

終了後、「市内でアートのことを何でも話そうという場はありそうでなかった」とおっしゃる方、話をしたり聞いたりして、考えが整理されたのか「すっきりした」と会場を後にする方もいらっしゃいました。



「さかいとあーと井戸端かいぎ」は、その時の参加者や時期によって話す内容などは変わります。交流会後の個別相談も数名の方にご参加いただきました。今後もさまざまな会場で実施していきます。

（2022年7月27日西区役所にて開催）

開催レポート | 地域とアートを学ぶ勉強会 第2回

「集まる場から作る仲間の増やしかた」



今回は、活動を続けていくと誰もが直面する課題「仲間づくり」をテーマに、組織のコアメンバー、ボランティア、協働相手など、新しい仲間に出会うためのヒントとなるよう企画しました。

ゲストは、市民参加のまちづくりコーディネーターのNPO法人SEIN事務局長・（公財）泉北のまちと暮らしを考える財団代表理事の宝楽陸寛さん。主に泉北ニュータウンで手がけているプロジェクトの事例をお話いただきました。その中から印象的だった事例をひとつご紹介します。茶山台団地でのコミュニティづくりの事例では、「子ども会を復活させたい」「DIYが得意だから生かしたい」など、自発的に生まれた数人単位の小さなコミュニティを支え、各コミュニティが定期的に集う場をつくることで、それぞれの小さな願いや困りごとが共有され、それぞれの得意なことを生かしあう形で、解決につながる新しい活動が生まれていったそうです。

地域コミュニティ全体の視点からみると、文化芸術活動もひとつの小さなコミュニティ。そんな立場から考えてみると、宝楽さんのように地域コミュニティ全体のための活動をしているコーディネーター的役割の人に存在を知ってもらう、スポーツや子育てなど他の分野のコミュニティの人と会える場に出向いてみる、あるいは自らの活動が、といった出会いの場としての機能も果たせるよう、内容

堺アーツカウンシル（堺AC）は専門知識を有する人材が文化芸術に携わる人たちを支援することで、文化芸術の振興を図り文化芸術を活用して子育て、教育、福祉、観光、地域の活性化といった様々な分野の社会的課題の解決をめざす組織です。

や広報にひと工夫してみる、などが新しい仲間を増やすための方策かも知れません。また、企画した私たち堺AC自身も、これからたくさんの出会い場をつくっていかなければと改めて確信する学びの機会となりました。

(2022年8月31日東文化会館にて開催)

視察レポート | 禾和（かにこ）書の会 |

堀田晶子



新金岡駅の階段を上るとすぐ、新金岡東校区地域会館2階で毎週火曜に行われる禾和書の会を訪ねました。紺色の毛せんを敷いた机には小学生がひとり。すっと「たき」と書きました。小学1年生の夏休みに書の宿題が出て、書道教室を体験して楽しかったので2年生から通っているそうです。1時間程するとお祖母さんが迎えに来て、次に高校生が入ってきました。ダンスと書を習っているとのことでした。

この会は、楽しく書を学ぶことがモットー。「コロナ禍の時に、書は自分でできること、それはしあわせなことと気づいた」と主宰する堀田先生は語ります。「コミュニティがある、話せる仲間がいることも、自分が無でないと感じられた」と。

この場に流れる時間は静かな集中力に満ちています。終了時間が近づく頃、仕事帰りの人が自宅で書いた束を先生の前に置きました。朱の筆を持ち、先生は字の形、筆の運びをひとつひとつ見てゆきます。「考えて書くの」。「ひよいと起こして」。「しゅー、とん」。思考、姿勢、筆を持つ筋肉、コツコツと続けて身につく自分だけのもの。薄い白の紙に墨色となって表れます。

令和4年度堺市文化芸術活動応援補助金に採択された秋

冬に予定している展覧会には、教室の方だけでなくさまざまな方に出展してほしいとのことで、障害のある人が通う就労支援B型事業所をご紹介しました。

(2022年7月5日視察)

視察レポート | 音を描くワークショップ |

一般社団法人プレイフルタイム

フェニーチェ堺大スタジオでの「音を描くワークショップ」、小学生対象の第2部を見学しました。

会場の前方にはいくつかの楽器が並んでおり、後方はブルーシートの上に大きな紙が置かれています。子どもたちはクレパスと画用紙をもらってまずは前方へ。

楽器の音を聞き、その音に合う色を選び、その音のイメージを画用紙に描くというワークから始まりました。中にはギロを「すいかの種をかんでいる音」と表現する子どもも。それぞれ想像が広がっているようでした。その後は後方に移動。曲が演奏されている間、大きな紙に自由に絵の具を塗っていきます。続いて「動物の謝肉祭」の短い曲がいくつか演奏され、そのイメージに合った絵をクレパスで描きました。このワークでは音楽を体で聞く楽しさを感じられるといました。後半には「くるみ割り人形」の人形劇やミニコンサートもありました。

保護者の方からは、コロナ禍で子どもを対象とした音楽の鑑賞機会が減っているので、こうした取り組みにとても興味が湧き申し込んだという声がありました。子どもたちにとっても、夏休みの思い出のひとつになったのではと思います。



(2022年8月12日視察／令和4年度堺市文化芸術活動応援補助金採択事業)

堺アーツカウンシルでは、堺市ホームページ、Twitterなどで、情報を発信しています。

ホームページ：堺市ホームページ (<https://www.city.sakai.lg.jp/>) 内。

画面右上「目的別検索」にて「堺アーツカウンシル」で検索。

Twitterアカウント：@SAC_sakaibunka



ホームページ



Twitter